

自己評価報告書

平成29年度 月島第一小学校 自己評価報告書	
学校名：中央区立月島第一小学校	所在地：中央区月島4-15-1
校長名：三木 滋	
児童数 402名	学級数 13 特別支援教室 児童数 14名
教員数 28名	職員数 5名 講師・補助・支援員 18名 総数 51名

**1 重点目標の達成状況及び取組状況**

[保護者アンケート 282：提出率 71%]

評価：保護者・児童

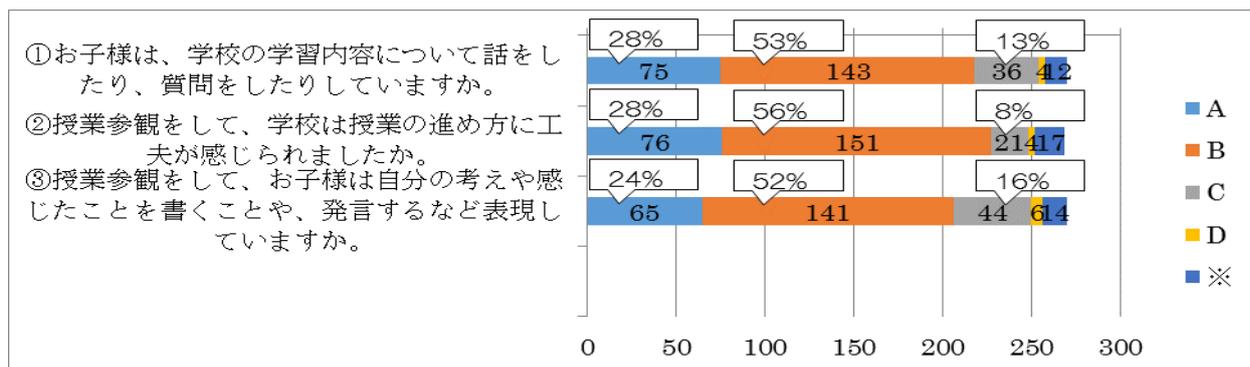
[帯グラフは、保護者アンケートの結果]

[A:よくあてはまる B:あてはまる C:あまりあてはまらない D:あてはまらない ※よくわからない]

評価：教員

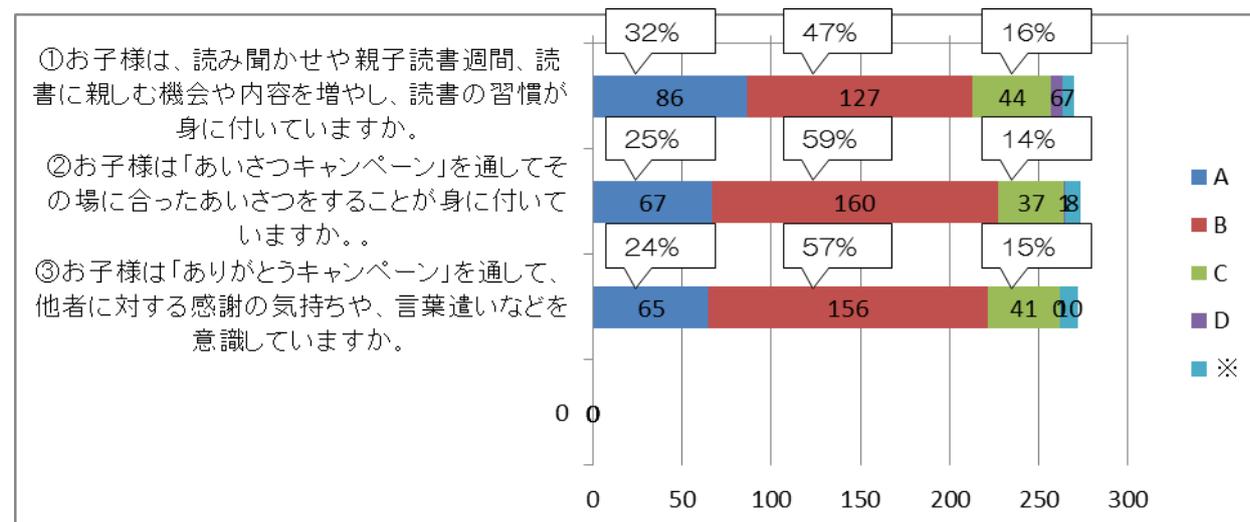
[A:十分達成している B:達成している C:改善を要する D:緊急に改善を要する]

**重点目標1 進んで学習に取り組む子どもを育成する**



- ・①は保護者 81%、児童 73% ②は保護者 84% ③は保護者 76% が「あてはまる・達成」と評価している。今年度から、基礎基本の定着を目指し算数科の校内研究に取り組み、個別に補習学習も実践していることも肯定的な評価につながったと思われる。授業の工夫に関しては、今年も、校内の若手教員育成のOJTを継続して実践していることの成果や、授業参観から児童が学習に意欲的に取り組んでいる姿が、見られていると思われる。
- ・ただし、③の「自分の考えや感じたことを書くことや発言するなど表現していますか」については、保護者 23%が、あてはまらない・よくわからないと、この3項目の中で、最も達成率が低い。発言する児童が限られている学級や、1日の中で、学級全体で発言する学習の場が少ないこと、さらに、書くこと発言することに抵抗があり苦手な児童がいることも、表れている。算数科以外でも、さらにコミュニケーション・表現活動を取り入れた授業を意図的に進め、さらに自分から進んで学習する習慣の定着を図るようにする。

**重点目標2 豊かな心を育む活動を推進する**

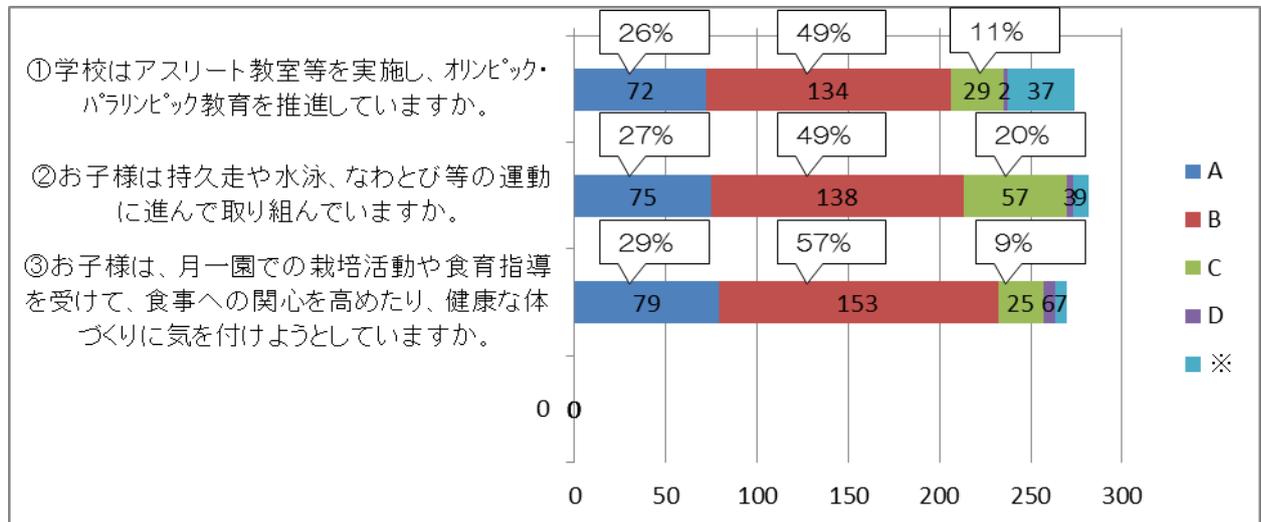


- ・①は保護者 79%、②は保護者 84% 児童 79%、③は保護者 79%が「あてはまる・達成」と評価している。昨年度から、「あいさつキャンペーン運動」が実施され、生活給食委員会の児童が、交代で朝、玄関に立ち、登校してくる児童に声をかけて、あいさつが広がるように取

り組んだことも成果につながったと思われる。

- ・「その場にあったあいさつをすること」が「不十分」と捉えている保護者が14%で、昨年より10%も不十分が減ったことは、改善されていることがわかる。教員やボランティア職員、友達と会話する言葉についても、児童一人一人の心の安定を図りながら、場や相手に応じた言葉遣いを、表現できるようにして、今後も進んであいさつする児童の育成を推進する。
- ・今年度も、「ありがとうキャンペーン」も実施した。教室や廊下、登下校中にも、周りの人に声をかける児童が、少しずつ増えていくことで、豊かな心が育まれていくと考える。

### 重点目標3 じょうぶな体、健康な生活習慣を形成する活動を推進する

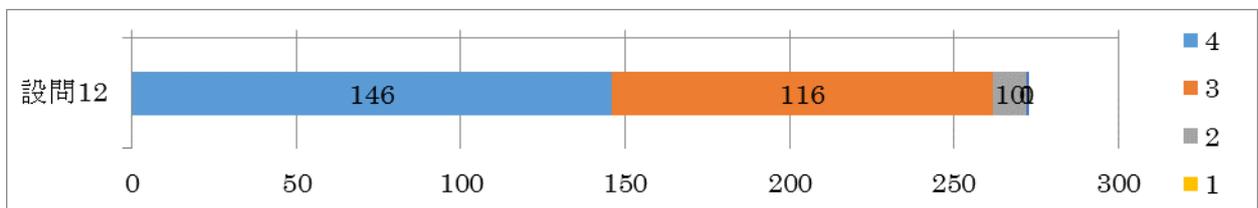


- ・①は保護者75% ②は保護者76% 児童90% ③は保護者86%が「あてはまる・達成」と評価している。オリンピック・パラリンピック教育推進校として、今年度は、シッティングバレーボール体験教室を学校公開日に開催したことも、意識を高めることができ、高い評価につながったと思われる。
- ・重点目標3について、今年も注目する点は、③で「食事への関心を高める」ことに低い評価をした児童・保護者は13%であるのに対して、学校で「給食を残すことがある」児童は24%いることである。栄養士や担任が、食育指導を積み重ねていても、なかなか、豆類、野菜スープ、煮物、魚等、主に和食に関して、残菜量が少なくなっていない。次年度は、残菜量が10%を下回る品物が一日でも増えることを目指す。担任の配膳指導・お代わりのすすめ方等、食事の時間の確保も含めて、さらに学校全体で取り組んでいきたい。

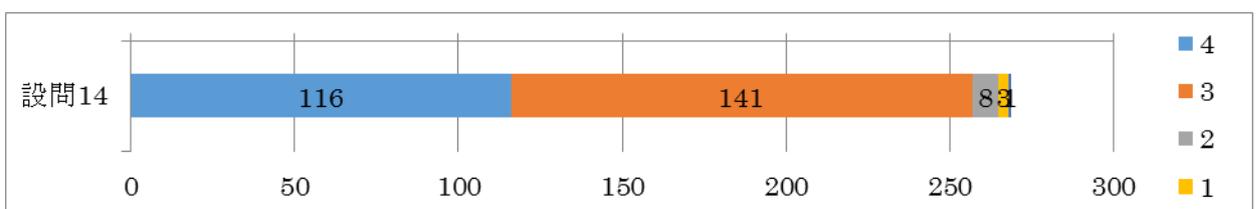
### 2 重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況

- ・保護者は、18項目中90%以上が5項目で、さらに8項目も80%をこえている。上位3項目を以下にあげる。

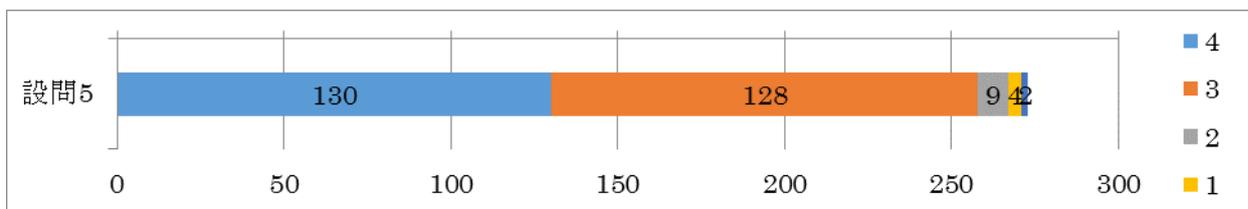
◇学校は保護者や地域の人々が積極的に教育活動にかかわれるようにしている。



◇学校は行事や学校公開などを通して児童の学習の様子や生活がわかるようにしている。



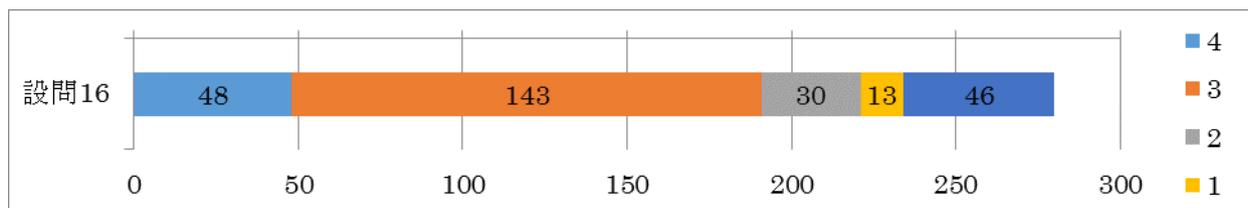
◇児童は明るく生き生きと学校生活を送っている。



- ・「図書ボランティア」「月一園協力者」「おやじの会」「ミシン縫い協力者」「地域安全マップ学習グループ支援」等、積極的に教育活動に協力する保護者がいる。さらに、児童の学習の支援に協力を求めている。
- ・今年度も、6年生の金管演奏による「月一パレード」を運動会と音楽会で発表し、伝統を受け継ぐとともに目標をもって最後まで粘り強く取り組む力を育成することができた。そして、年度末の5年生への引継ぎを通し、最高学年の自覚を高めることができた。さらに、「月一合唱団」が、晴海客船ターミナル、晴海トリトン、府中芸術の森劇場と、音楽会も含め、年間4回発表して、大いに自信を付け、次年度につながる活動ができた。
- ・学習予定表を毎週発行している学年や、行事後の学年便りやホームページ、本校の特色を生かした教育活動を、食育指導とともにさらに工夫して計画的に実践していきたい。
- ・児童アンケート〔390名(98%)〕からも、12項目中5項目「授業内容がよくわかる」「みんなで使う物を大切にする」「友だちと仲良く生活する」「学校の行事は楽しい」「宿泊行事での友達との触れ合い」が、91～98%の高い評価である。

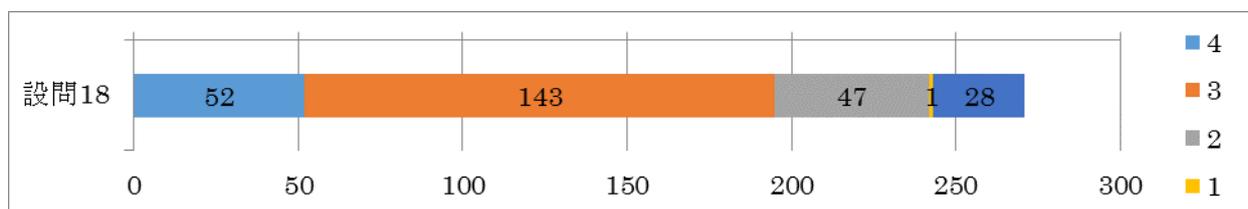
・一方、保護者アンケートからは、68～77%の達成不十分の項目が5点ある。その中の2項目を挙げる。

◇学校は、コンピュータ室や図書室を十分活用している。



- ・昨年度の状況と同様で、「わからない」が16%である。学年によってコンピュータ室の利用回数が少ない学級があること、児童が、保護者にパソコン室で学習したことを話していないこと、学校公開授業等で、学習の場面を見せていないこと等が考えられる。各学年の年間の計画を確実に実施できるように、改善を図ることを続けていきたい。

◇保護者は、学校の教育活動に積極的にかかわっている。



- ・この項目は、昨年までの評価と比べて、「あまりかかわっていない」が17%と増えた。もっともっと積極的にかかわってほしい保護者が、身近にいると思えば回答したと思われる。かかわりやすい内容の設定にすること、年に1回は手伝えること等の呼びかけを学校から発信して、不公平感が残らないようにしたい。

### 3 今後の改善方策

- ・外部評価委員の先生方から、ご指導いただいた下記の点を重点に次年度は取り組んでいく。
  - ①重点目標の評価の分析・考察・次年度の改善策を冷静に整理して、学校改善の方法を見出していくこと
  - ②保護者アンケートの回収率を上げるために、具体的な目標値を立てること
  - ③重点目標に向けて、児童・保護者・教職員の質問内容を確認して、分かりやすく有意義な内容項目にすること
  - ④校内における、備品用品の整理を児童の事故防止、安全点検という視点で見直すこと
- ・学校公開、全体保護者会、学校だより、ホームページ等で、月一小の特色ある教育の実践と成果についてより一層周知を図り、学校・保護者・地域が連携して、児童一人一人を伸ばす教育を推進し、さらに信頼される学校を目指し、教職員が一丸となって取り組む。
- ・オリンピック、パラリンピック教育推進校として、さらに、中央区一校一国運動にも、事前の打ち合わせを含め、計画的に取り組み、一人一人が将来の夢をもち、夢の実現に向かって努力したり生き方を考えたりする活動を発達段階に応じて工夫し、積極的に取り組む。
- ・特別支援教育コーディネーターや特別支援教育校内委員会、保健指導部を中心に、スクールカウンセラー、教育相談員と連携を図りながら、意図的・計画的に特別支援教育の推進を図る。特に、配慮を要する児童の児童理解・集団生活における生活指導・いじめ防止等、全校体制で取り組み、落ち着いた学校をつくっていく。
- ・児童のアンケートで「給食を残さず食べている。」が76%と、昨年よりさらに微増し、改善に向けて成果がみられる。今後とも、教育活動全体からの取組と個に応じた指導を継続して行っていく。